

—特集—

その一歩から、 あんしん内子みち

「春の全国交通安全運動」
期間の4月6日から10日間、
各地で交通安全の取り組みが
行われました。春は新生活が
始まる季節。ドライバーも新
しい環境、慣れない場所で運
転をする機会が多くなること
から、全国的に交通事故が増
える傾向にあります。

新入学児が初めて登下校
をする春。慣れない通学路で
は、地域の皆さんの見守りが
子どもたちにも保護者にも、
大きな安心につながるはずで
す。今回の特集では、まちの
交通安全のために取り組む皆
さんを紹介します。子どもた
ちの安全を守るために私たち
にできることを、改めて考え
てみませんか。

事故ゼロを目指して 「ゆっくり走ろう」

交通事故ゼロが続く内子町。継続に必要なことは、まずは一人一人の心構え——。大洲警察署内子交番所長の加藤政之さんに、県内の事故の状況や安全運転のために改めて気を付けたいことを聞きました。

死亡事故ゼロを目指して

この春から内子交番に勤務しています。父も元内子警察署長をしていたこともあり、縁を感じています。4月の交通安全期間中は毎日、通勤・通学時間帯の見回りを行いました。通学中の子どもたちにあいさつをしたら「おはようございます」と元気な声で答えてくれたり、手を振ってくれたり——。地域の皆さんに大切に育てられているんだなど温かい気持ちになりました。内子町では交通安全全協会の皆さんをはじめ、それぞれの地域で積極的に交通安全活動をいただいています。

す。取り組みの成果として4月4日には、900日間の交通死亡事故ゼロを達成しました。この数字がずっと続くよう、今後も町全体で交通安全の意識を高めていきたいと思います。

今、飛び出す「かもしれない」

今年、県内で起きた死亡事故は17件（4月26日現在）。前年同期と比べ5件増加しています。そのうち大洲警察署管内では2件が発生。特に南予地方では22日に宇和島署管内で死亡事故がありました。事故を起こしてはいけないと分かっています。

も、不意な飛び出しなどは予測が付きません。町内には見通しが悪く、曲がった先の見えない交差点もあります。危険な場所では、すぐに安全に停止できる速度で運転してほしいと思います。「いつもの道だから」と漫然と走っていると、いつか事故につながるかもしれません。通り慣れた道ほど「かもしれない運転」と、時間と心にゆとりを持った運転を心がけてください。

内子はゆっくり走るまちに

死亡事故につながる一番の原因はスピードの出し過ぎ。逆に言えば、速度を守ることが重



幸山 咲絵さん・智惺さん
|| 内子1 ||

子どもに目をやって 優しい気持ちで運転を

娘は小学校近くのピアノ教室に通っているので、送迎の車で「入学したら毎日ここを通るんだよ」と伝えていました。入学前の学校説明会では、親子で通学路を歩き、気を付けるところなどを確認するよう連絡がありました。娘は家から学校まで歩くのは初めてでしたが、交差点では「右見て左見て、手を上げて」としっかりできて、わが子ながら感心しました。保育園で警察の人に教わったことがあるようです。そういえ

ば免許更新の時に「渡る意思を運転手に示すために、大人も手を上げましょう」と言われたなあ——。私一人だったら気恥ずかしいけれど、娘を見ていると「大人がしっかりしないと」と再認識させられます。

通学路で特に心配なのは国道を渡らなければならぬこと。登校の時間帯は交通量が多く、スピードを出す車も見かけます。また商店街に入ると歩道がなく、道も狭いので車がすぐ近くを通ることがあります。「曲がり角は急に車が来るかもしれないよ。気を付けてね」と伝えていますが、登下校中は友達とのおしゃべりに夢中で周りが見えなくなることもあるかもしれません。ドライバーの皆さんには子どもの目線を少し意識してもらい、ゆっくりと優しい気持ちで運転してもらえたらうれしいです。私も娘の手本になれるよう、これまで以上に気を付けたいと思います。

親子で通学路を歩いてみました！

新1年生の幸山智惺さん。真新しいランドセルを背負い、春休みにお母さんと一緒に通学路の下見に出かけました。その様子を紹介します。



1_通学路には道幅が狭い道路がある。「ランドセルを引っ掛けないようにね」とお母さん 2_工事現場を発見。安全を確認して通る 3_交差点では車が見えづらい場所も。「そこにカーブミラーがあるよ」と確認 4_国道を横断するときは、信号機と横断歩道があるところまで少し遠回り。しっかり手を上げて渡る



内子交通安全協会
会長 宮脇 邦夫さん

地道な活動はきっと まちづくりの一助になる

40年以上前から交通安全協会の活動を始め、昨年からは会長をしています。各支部では立ち番の他にも、交通安全教室や祈願祭など、皆さんがアイデアを出し合い、熱心に活動を続けています。「事故を起こしてはいけない」という啓発は、地道に続けていくしかありません。私たちの活動が、まちの皆さんの交通安全への意識付けになればと思っています。私のいる天神地区では、龍宮トンネルが開通してから交通量が多くなりました。通りには交通安全の作品を並べて「標語と絵画のいたわり通り」と名付けました。幼稚園児や小学生、老人会の皆さんに考えてもらった、心に響くいい言葉と絵がたくさん。まるで守り神のようです。

会員の願いは、事故のない日々がずっと続いていくこと。それでも想定していないことが起きるのが交通事故。だからこそ小さな積み重ねで、普段の意識を高めていくことが大切だと思います。活動はきっと、まちづくりの一助になるはず——。皆さんもぜひ協力してもらえると嬉しいです。

人の輪作戦・交通茶屋

ドライバーに安全運転を呼びかける「人の輪作戦・交通茶屋」が4月11日、内子交番前で開かれました。春の全国交通安全運動期間に合わせて毎年実施しているもので、交通安全協会や安全運転管理者協議会など各団体の会員らが参加。ドライバーに「交通安全にご協力を」と啓発グッズを手渡しました。



意識で変える 交通安全のまち

春の全国交通安全運動に合わせて、町内でもさまざまな取り組みが行われました。一つ一つの地道な活動の積み重ねが、町の皆さんの意識を高めることにつながっています。内子交通安全協会会長の宮脇邦夫さんに、活動で大切にしていることを聞きました。



交通安全教室を小中学校で実施

町内の各小・中学校で交通安全教室が開かれました。4月12日には大瀬中学校で実施。生徒らは自転車と徒歩のグループに分かれて、大洲警察署員や交通安全協会会員の指導を受けながら、国道から商店街を通るルートで、道路を横断するときの注意点などを確認しました。また自転車のヘルメットの正しい着用方法を教わるなどして、交通安全への意識を高めました。



小さな行動が守る地域の宝

交通安全の立ち番で、登校中の子どもたちや行き交う車に目をやる池永壽子さん。内子交通安全協会で長く活動続ける一人です。「地域の安全は、自分たちで守る」という池永さんの言葉から、子どもたちを優しく見守る温かさが伝わってきます――。

長年の活動を続けて

結婚を機に大阪から内子に帰ってきました。婦人部の知り合いに「何もしなくていいから」と頼まれたのがきっかけで活動を始め、はや50年――。日々、協会の知名度をもっと上げたいと思いつながら頑張っています。協会全体を見ると役員となり手不足で、私も含め、何十年もやっている人もいます。でもいろいろな人との付き合いも長くなるので、それは楽しさの一つかもしれませんね。

相手を思いやった行動を

交通整理って、素人には意外と難しいんですよ。360度、周りに目を光らせないといい

交通安全に必要な心構えは、きっと皆さんも知っている当たり前のこと。それでもほんの少し気が緩んだり、心が焦ったりすることはあります。そんなとき、交差点で見守ってくれる人や、横断歩道で「止まってください、交差点で見守ってくれる人を見かけたら、きつと普段の気持ちを出してあげることができません。そしてあなたが思いやりのある行動を取ること、また周りの誰かに伝わっていきます。交通安全の意識を高めるには、町全体で取り組みを積み重ねていくこと――、子どもたちが笑顔でいられるために、近くにいる私たち大人が安全を見守ること、子どもたちが正しく行動できるように手本になることの両方が大切です。自宅の近くを通るときに声をかけてあげること、立派な交通安全活動。小さな行動一つ一つが、まちの交通安全、まちの宝である子どもたちの笑顔を守ることにつながります。子どもたちの笑顔は、私たちもまた笑顔にしてくれるはずですよ。皆さんでできることから行動してみませんか。



内子交通安全協会
池永 壽子さん
=内子7=

ないし、その場にに応じて判断が必要。今でもここらでは私が一番上手かもしれませんね(笑)。覚えるには現場に出て経験を積むしかありません。それができたのも送り迎えをしてくれる旦那や、声をかけてくれる地域の皆さんの支えのおかげです。私が立っているのを見た人が「気を付けないといけないな」と思ってくれたらそれでいい。それに仲間が「池永さん、おつてよ」と言ってくれるのもうれしいです。だから老骨にむち打って、体が動くうちは立ち番を続けたいですね。人の命に関わることだし、自分も思い思いをすることがあるので、続けるのは大変です。それでも自分ができることは精一杯やって

いるつもりです。あれがよかった、これはだめだったかと思う、何事も相手の身になって考えることが大切だと思います。皆さんも自分や家族のことを思えば、相手を思いやった優しい行動ができるはず――。近頃は横断歩道で止まってくれる車も増えました。そんな優しい気持ちを、すべての人に持つてもらえたら、きつと事故はなくなるんじゃないでしょうか。

小さな行動が守る安全

普段も自宅の近くの交差点で小学生を見送り、「車が止まってから行くんですよ」と声をかけています。私以外にも、商店街でも自主的に見守っている人がいます。小さな行動かもしれないけれど、その一つ一つが交通安全につながっています。子どもたちを守っているんです。「警察が守ってくれるのが当たり前」と思っているのではありません。自分たちの地域の安全は、みんなで守るといふ気持ちが大切です。子どもは地域の宝。地域みんなで、見守ってあげたいですね。

備えて安心、交通安全グッズを利用しましょう

反射タスキなどを配布しています

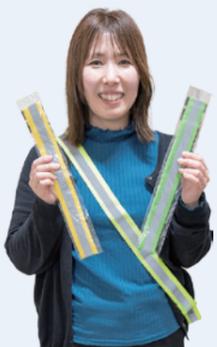
反射材を利用すると、夜間に車から見つけやすくなり、事故防止に役立ちます。内子交通安全協会では反射たすきなどを無料で配布しています。

- 配布物 反射たすき・リストバンドなど
※色や柄は変わる場合があります。
- 受取方法 内子交番の窓口で直接お渡しします。

《交通安全協会費にご協力ください》

同協会の活動は、ドライバーの皆さんからの交通安全協会費によって支えられています。運転免許の更新時に納入でき、会費は500円×有効年数です。皆さんのご協力をお願いします。

【問い合わせ】
内子交通安全協会 (内子交番内)
☎0893 (43) 0116



自転車用ヘルメットの購入費用を補助

内子町では交通安全対策を推進するため、町内の事業者から自転車用ヘルメットを購入した人に補助金を交付します。

- 対象者 町内に住所がある人で、町内の販売事業者からヘルメットを購入した人
- 補助金の額 購入費用の1/2以内(上限3,000円)
- 申請方法 所定の申請書に領収書などを添えて提出してください。

※6年度に限り、5年度中に購入したヘルメットも対象となります。詳細は電話でお問い合わせください。

【問い合わせ】
総務課危機管理班
☎0893 (44) 6150

